

IR ニュース

2018 年 10 月 <創刊号>



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

巻頭言

福山大学 IR 元年に思うこと

2018 年 4 月、福山大学に IR (Institutional Research) 担当の学長補佐が新たに設けられ、「福山大学 IR 室規則」も制定されました。まさに本年が福山大学の IR 元年と言えます。

一方で、IR という言葉は使用していませんでしたが、既に大学の教育・研究の質向上や学生支援のため、データを収集・分析し、改善施策を立案して実行・検証を行う、PDCA サイクルに沿った活動は実施していました。但し、これらのデータや分析結果は、本学内に分散する形で各学部・センター・委員会、事務部門等で独自に保管されてきました。IR 室の最初の重点課題は、まず本学に存在する各種データの把握と収集を行い、全学の意思決定を行う際のデータベースを構築し、一定の権限のもとに構成員が共通の形で利用できるようにすることです。

ところで、日本における IR の現状は、IR が盛んなアメリカの大学の実践が報告されたり、先行実施した日本の大学関係者が研修会を開催して相互に情報共有したりしている段階です。日本の IR は 2015 年くらいから動きが出始め、現在は IR 担当者 (IRer) の養成に各大学が非常に積極的になっています。本室員が IR 関連学会の研修会に参加していますが、いずれも募集人員が瞬く間に埋まる状況です。この現状は、IR が大学の発展にとって重要な役割を担うことへの期待の表れかと思います。

IR ニュースは、IR に関する本学の現状と一般的動向を定期的に発信していきます。IR ニュースが、IR への理解と関心を高め、IRer として活動する方も増えていくことを期待しています。

学長補佐 (IR 担当) 兼 IR 室長 平 伸二

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言	1
活動報告	2
IRer ミニ講座	3
お知らせ・イベント	3
図書館の紹介	3

活動報告

IR は、大学の教育・研究の質的向上や学生支援、経営・運営の改善等を目的として、学内外データの収集・分析、改善策の立案、施策の実行・検証などを総合的に実施する活動を意味します。本学では、2018 年 2 月に、学長より「福山大学 IR 室設置について」の提案があり、IR についての実質的な活動が開始されました。

今年度は

- ・本格的な取り組みの準備段階として、キャビネット Karin を日常業務に利用し、IR に求められるデータの収集と管理に習熟する
- ・IR に関する情報の収集方法、分析法を検討する
- ・IR 活動の広報を行う

の 3 項目に重点を置いて活動を行っています。

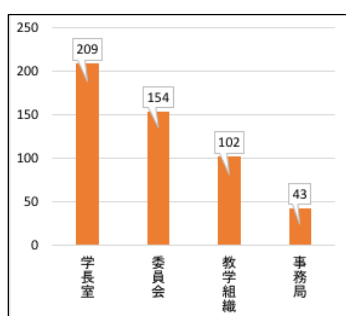


図 1 Karin へのアップロード数
(部署別 10/13 現在)

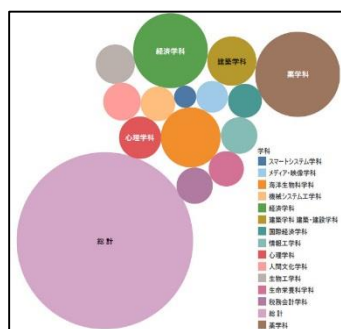


図 2 学科別学生数(5/1 付)

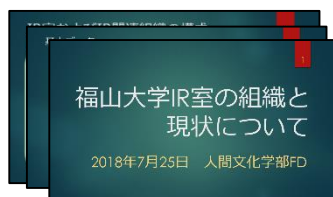


図 3 人間文化学部 FD 資料

キャビネット Karin について

利用内規を制定、利用申請のルール化、全学教授会で Karin の紹介などを行いました。

日常業務データ保管領域の活用を促し、利用状況の把握に努めています。現在の利用状況は図 1 の通りです。

IR 室では整理すべきデータ項目の検討を行っていますので、より系統的なデータを得るために各部局からの積極的なご意見やご提案頂ければ幸いです。

IR に関する情報の収集、分析法の検討

IR 関係学会、研究会を調査し、大学評価コンソーシアムに入会するとともに、評価・IR 担当者集会 2018 等に参加し、先行する大学との経験交流を行ってきました。これらの他にも複数の大学で IR 関係のセミナーや研修会が行われています。これまでに入手した資料はキャビネット Karin に掲載します。別途ご案内いたしますので参考にしてください。

Tableau ハンズオンセミナー in 広島 (主催シリウス DS)では、収集したデータの表現法を調査しました。これにより、必要なデータの可視化が容易になり、現状の把握がより効率的、効果的に行えるようになります(図 2)。

IR 活動の広報・啓発

2018 年 7 月 25 日 (水)、IR をより教職員の身近な存在とするために、人間文化学部 FD で IR 室の組織と活動についての紹介を行いました (図 3、講師 記谷康之)。

今年はさらに、全学 FD 研修として IR 活動を取り上げ、この分野に造詣の深い学外講師をお招きすることを提案しています。

IRer ミニ講座 第1回

IRer は IR を担当する者を意味する造語です。

IR は 1950 年～60 年代のアメリカでカリキュラムの設計や学生調査などに関わる調査研究として実施されるようになりました。その後、70 年代には大学経営に関わる調査研究、80 年代には機関内の情報共有、教育の成果の説明に関わる調査研究として実施されるようになりました。

日本の IR は、アメリカの IR と同様に評価への対応、説明責任、大学の情報公開の目的に加え、政策誘導をきっかけに IR 活動が形成されている状況があります。とはいえ IR 活動は、学内外の様々な「データを収集分析」し、意味のある「有益な情報を見出し」、学内外の「関係者に報告する」一連の業務が基本です。

IRer ミニ講座では、IR 活動で使われる用語と概念、統計学や思考法、ICT の活用法などのツール、政府や大学教育関係諸機関から出される通達や法令などについて少しずつ紹介していく予定です。

図書の紹介

『大学の IR－意思決定支援のための情報収集と分析』

小林雅之, 山田礼子(編著), 2016 年, 慶應義塾大学出版会

ISBN978-4-7664-2279-5 ¥2500+税

福山大学図書館所蔵, 377. 1/ K

<まえがきより>

これから IR を導入しようとする方に役立つヒントを提供すること

『大学の IR Q&A』

中井俊樹, 鳥居朋子, 藤井都百編, 2013 年, 玉川大学出版部

ISBN978-4-472-40473-3 ¥2000+税

<まえがきより>

実際の場面で活用できるようにすることを目的として本書を作成しました

『IR 実践ハンドブック－大学の意思決定支援』

リチャード D. ハワード(編), 大学評価・学位授与機構 IR 研究会(訳), 2013 年, 玉川大学出版部

ISBN978-4-472-40453-5 ¥3600+税

福山大学附属図書館所蔵, 377. 1/H

<日本語版への序文より>

IR 担当者が専門的な知識、スキル、能力を継続的に学習し、発展させるための 1 つの里程標となることを意図して企画された

お知らせ・イベント

■大学評価学会

第 56 回研究会等のご案内

日時: 2018 年 12 月 8 日 (土)

13 時 30 分～17 時

場所: 愛知工業大学 本山キャンパス 3 階 講義室 2

■IR 関連学会 HP

・大学評価コンソーシアム

(<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>)

・大学 IR コンソーシアム

(<http://www.irnw.jp/>)

・大学評価学会

(<http://www.unive.jp/>)

・MJIR: 大学情報・機関調査研究集会

(<http://mjir.info/>)

編集後記

IR に関するさまざまな情報を提供する目的で IR ニュースを発行することになりました。今回の特集はみなさまに IR 室はどのような活動をする部署なのかを知っていただく内容といたしました。今後ともよろしくお願いいたします。(記)

IR ニュース <創刊号>

2018 年 10 月末日発行

編集

IR 室

編集委員

平 伸二

占部 逸正

片桐 重和

記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡ください。

Email: irwg@fukuyama-u.ac.jp